

千葉市美術館コレクション展

石井光楓

両洋のまなざし

ISHII KŌFŪ

2024 4.6^土—6.16^日

【休室日】 4月15日(月)、5月7日(火)、20日(月)、6月3日(月)
※5月7日(火)、6月3日(月)は全館休館

【開館時間】 10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで)
※入場受付は閉館の30分前まで

【観覧料】 一般500円(400円) 大学生400円(320円)
小・中学生、高校生無料
※()内は市内在住65歳以上の料金
※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料
※同時開催の「板倉鼎・須美子展」をご観覧の方は無料
※割引の併用はできません
◎本展チケットで5階常設展示室「千葉市美術館コレクション選」もご覧いただけます。

【会場】 千葉市美術館7階展示室

【主催】 千葉市美術館

千葉市美術館

Chiba City Museum of Art

〒260-0013 千葉市中央区中央 3-10-8

Tel.043-221-2311 <https://www.ccma-net.jp>

《[港の帆船]》制作年不詳、石井万里子氏寄贈

特集展示

石井光楓

千葉市美術館コレクション展 房総ゆかりの作家たち

ISHII KŌFŪ

2024 3.9^土—29^金

【休館日】 会期中無休

【開館時間】 10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで)
※入場受付は閉館の30分前まで
※最終日は16:00まで

【観覧料】 無料

【会場】 千葉市美術館7階展示室

【主催】 千葉市美術館



千葉市美術館

Chiba City Museum of Art

〒260-0013 千葉市中央区中央 3-10-8

Tel.043-221-2311 <https://www.ccma-net.jp>

上:《中国大樹》(部分) 1938年頃、石井万里子氏寄贈
右:《コンセルナの老婆》制作年不詳、石井万里子氏寄贈





《シャートルのワシントン港レイキ》制作年不詳、石井万里子氏寄贈

1892(明治25)年、石井光楓は夷隅郡浪花村岩船(現在の千葉県いすみ市)に生まれました。20歳の頃に石井林響のもとで日本画を学び、その頃に得た日本画の精神は、のちの光楓の画業にも大きく影響していくこととなりました。

当時、多くの日本人画家がアメリカ経由でパリを目指しており、光楓もそのうちの一人でした。1922(大正11)年にサンフランシスコに到着した光楓は、アメリカ各地を取材しながら制作し研鑽に励みました。この頃の作品は軽やかな筆致とみずみずしい色彩によって、対象をとりまく雰囲気まで描ききるような水彩画が多くみられます。

千葉から世界へ 大志を抱いた青年画家



《米国・ボートランド初夏》
1924年頃、石井万里子氏寄贈

《バルコニーのある家》制作年不詳、石井万里子氏寄贈



房総ゆかりの作家・石井光楓(本名・政二 1892-1975)は、日本画家である石井林響に師事したのち、22歳の頃に日本美術院研究所の門をたたき、洋画に転向しました。1921(大正10)年の第3回出品作が特選候補となるなど着実に実力をつけていた光楓ですが、海の向こうへと憧れを抱き、留学を決意します。30歳の光楓はまずアメリカへと向かい、続いてパリを目指しました。パリに到着した1925(大正14)年、アカデミー・ジュリアンで本格的に洋画を学びます。エコール・ド・パリ全盛期の只中に身をおいした光楓は、藤田嗣治ら活気あふれる画家たちと交流をしながら、サロンで作品を発表するなど精力的に活動しました。この頃の作品は特に東洋的な詩趣に富み、両洋の視座を得た光楓の作品は「ネオ・オリエンタリズム」なものとして注目を集めました。

1931(昭和6)年に帰国してからは主に春陽会に活躍の場を求め、1949(昭和24)年には会員となります。また、同年に郷里に戻った光楓は、千葉県立長生第一高等学校(現・千葉県立長生高等学校)で美術を教え、教育者として後進育成にも尽力しました。

本展では、当館所蔵の光楓作品の中から滞欧米時代の作品を中心に展観し、画業60年の歩みを回顧します。



《フランスの農村》1930年頃、石井万里子氏寄贈



《静物》制作年不詳、石井万里子氏寄贈



《裸婦習作 Meditation》制作年不詳、石井万里子氏寄贈

華やかなりしパリ、光楓がみた世界

1920年代のパリは、世界中から芸術家が集まり、さまざまな芸術運動が花開くなど、創造的なエネルギーに満ちていました。そうした中で光楓は、優れた描写力を身につけ、才能を開花させていきます。ベルギー、オランダ、ロンドン、スペインなど、ヨーロッパ諸国にも積極的に写生旅行へと出かけ、その成果はサロン・ドートンヌやサロン・ナショナルに入選するなどして実を結んでいきました。サロン入選を意識したアカデミックで写実的な作品から、だんだんと自由闊達な筆致によってやわらかな輪郭で対象をとらえるようになり、自身のスタイルを迫及していきます。

しかし、世界恐慌の余波と迫り来る戦争の影によって、約10年ぶりに帰国することとなりました。

同時開催

- 8・7階企画展示室「板倉鼎・須美子展」
- 5階常設展示室「千葉市美術館コレクション展」休室日：第1月曜日
※「板倉鼎・須美子展」「両洋のまなざし 石井光楓」展をご覧の方は無料
- 4階子どもアトリエ「つくりかけラボ14 荒井恵子 | 和紙のフトコロ墨のダイゴミ」 2024年2月14日(水)-5月26日(日) 休室日：第1月曜日 / 観覧無料

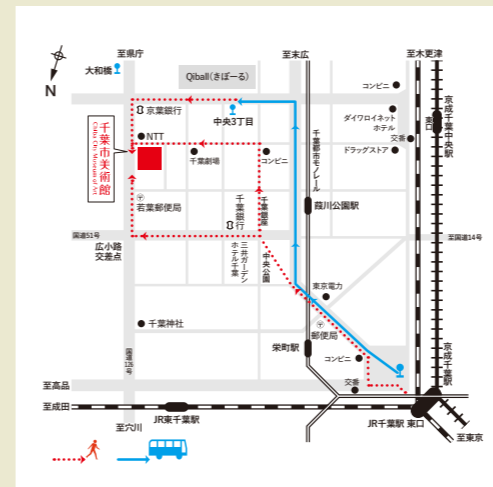
次回展予告

「岡本秋暉 百花百鳥に挑んだ江戸の絵師—摘水軒コレクションを中心に」
「江戸絵画縦横無尽! 摘水軒コレクション名品展」
2024年6月28日(金)-8月25日(日)

※内容やイベントが変更になる場合があります。最新の状況はホームページをご確認ください。

交通案内

- JR千葉駅東口より徒歩約15分 / バスのりは7番より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分 / 千葉都市モノレール県庁前方面行「葭川公園駅」下車徒歩約5分
- 京成千葉中央駅東口より徒歩約10分
- 東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車、国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く
- ※地下に機械式駐車場があります。
- ※シェアサイクルスポットがあります。



千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

〒260-0013 千葉市中央区中央 3-10-8
Tel. 043-221-2311
<https://www.ccma-net.jp>



《風景》制作年不詳、石井万里子氏寄贈

西洋と東洋、両洋のはざまで

パリの新聞「ル・フィガロ」の1929年1月2日付の記事で、光楓は作品2点とともに顔写真付きで大きく紹介されています。そこでは、日本人の心を持ちながら西洋風の作品を描く姿勢が「ネオ・オリエンタリズム」であると評価され、日本画に親しんだ光楓だからこそ表現できる独特の風合いが認められています。帰国して春陽会に活躍の場を移したあとも光楓の筆は止まることなく、今度は日本にいながら洋画における独自の表現を模索しました。得意とした水彩画、そして実直に取り組んだ油彩画にはそれぞれ西洋と東洋のまなざしが注がれ、光楓の制作に対する探究心があらわれています。



《読経》制作年不詳、石井万里子氏寄贈

《オランダの漁港》制作年不詳、石井万里子氏寄贈

